

## 書籍案内

方正友好交流の会が編集した本と会員及び関係著書をご紹介します。

\* 『風雪に耐えた「中国の日本人公墓」—ハルビン市方正県物語—』

方正友好交流の会 編著

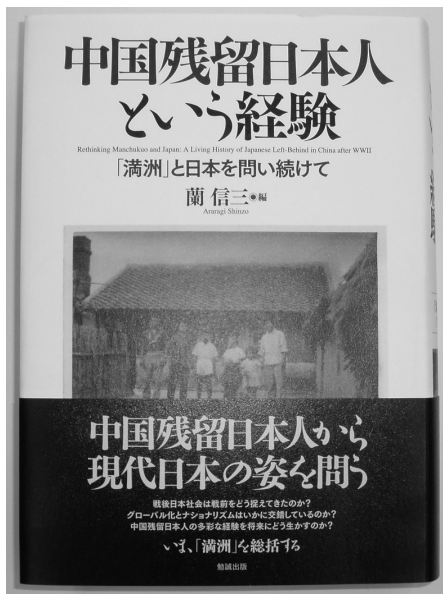
定価 1500 円

本書には、日本人公墓建立までの経緯などを王鳳山と奥村正雄が、中国養父母公墓を自力で建立した遠藤勇さんの半生を大副敬二郎が、方正県住民の家に住み込み、全力で稲作指導に邁進し「日中友好水稲王」といわれた藤原長作さんの一生と、敗戦後八路軍に入り帰国後、日中友好運動や麻山事件の犠牲者の公墓建立で活躍された金丸千尋さんの半生を大類善啓が執筆。また「方正友好交流の会」を成立以前から支えた人々の座談会を牧野史敬が司会進行した記録などが収録されている。(事務局に残部あり)

\* 『中国残留日本人という経験 「満洲」と日本を問い続けて』 蘭 信三 編

勉誠出版(株) TEL : 03-5215-9021

FAX : 03-5215-9025 定価 8000 円 (税別)



本書は、中国残留日本人の多彩な経験を通して、現代の日本を問い、「満洲」とは何だったのかを総括する。いわば中国残留日本人研究の総決算ともいえる 600 頁を超える大部の書だ。会員の南誠さんも『想像される「残留日本人」—国民をめぐる包摂と排除』を執筆している。また、会員の猪股祐介さんも『満洲農業移民から中国残留日本人へ』というタイトルで本書に論文を書いている。実は今回の 9 号で猪股さんに本書紹介の原稿を書いていただく予定だったが、多忙のため締め切りに間に合わなかった。猪股さんには次号で詳しく紹介していただく予定である。

\* 『風雪に耐えて咲く寒梅のように 二つの祖国の狭間に生きて』

可児力一郎 著

定価 1700 円

著者は、旧満州へ入植してから 17 年ほどの中国での残留生活を経て帰国するまでの記憶を綴ろうと、慣れない日本語と苦闘しながら、2003 年本書を書き上げた。本書は事務局でも扱っているの、払込取扱票を利用されるか、著者宛てに直接申し込んでいただきたい。

〒399-5303 長野県木曾郡木曾町田立 1 2 2 3 可児力一郎 (かに りきいちろう)

電話 0573-75-4755 FAX 0573-75-4557



## 《報告》

## ありがとうございました

前号の会報8号発行後、カンパをお寄せいただいた方、また新たに会員になられた方々のお名前を記して感謝の意をお伝えします。ありがとうございました。(敬称略、受付けた順に記載しました。09年12月1日現在)

遠藤勇 松尾政司 永瀬明子 中島静枝 篠田欽次 石原健一 高橋幸喜 駒ヶ嶺法子  
佐藤良夫 鷺沢弘 伊原忠 生田和美 伊藤幸枝 山田陽子 延城寺・網代正孝 小関光  
二 萩原武太郎 山内良子 師岡武男 石田和久 有馬和子 高橋健男 渡辺一枝 菊地  
薫 山岸忠夫 阿久津国秀 中島紀子 望月迪洋 奥村勉 鳩貝清太郎 岡崎友美 竹中  
一雄 岩噌弘三 山田弘子(越谷市) 北原汎 小畑正子 村田春恵 柴田ケイ子 魚崎宏  
阿部恵一 白西紳一郎 稲川清一 前川孝一 鳥島せい子 出口三平 高木誠一郎 穂苅  
甲子男 三森陽子 武吉次朗 伊東行子 神田さち子 田中喜久子 水城可 巻口弘 丸  
野公平 土川克廣 小早川のぞみ 福井以津子 東山健吾 木村美智子 川口憲 瀧亀久  
男 古賀勇一 北澤博史 新谷陽子 鈴木幸子 石原政子 豊田芳美 江見迪子 皆川純  
麿 栗原彬 鈴木俊作 松岡満壽男 寿山会 金丸良平 中島俊江 田中實 芹澤昇雄  
泉満 里見繁 前川よしえ 成田晃一 宮田一郎 北澤吉三 羽賀美代子 久保祐雄 飯  
牟礼一臣 森田恭子 山田弘子(新潟市) 栗原貞子 野田尚道 南誠 柴崎葦津子 伊佐  
昭紀 長野県開拓自興会 永原今朝男 風間成孔 森田重夫 木村孝 吉岡稔 長谷部照  
夫 名取敬和 可児力一郎 千島寛 田中信雄 山本勝彦 吉川孝人 川内力チエ 塩見  
雅正 貞平浩 埼玉県中国帰国者友の会 山本光夫 飯白栄助 丸茂秀直 鈴木革人 矢  
島真木子 及川康年 大草正一 貞平浩 黒岩満喜 馬場信昭 滝永登 日本中国友好協  
会新宿支部 三上智恵子 小林彰彦 富士国際旅行社 中島のり子 山田嘉彦 中謙吾  
千葉健生病院健康友の会中国語教室 紙谷周三郎 齊藤忠雄、NPO法人やまなみ、齊藤  
真理 高田俊 湯川勲 北澤吉三 獄崎敦子 佐貫幸雄 寺本康俊 後藤邦汎 長塚淑江  
合田享子 肥後茂樹 福島国夫 小林勝人 吉岡広幸 藤村光子 匿名(社会福祉法人中  
日新聞社会事業団扱い) 湯本信幸 竹井成範 團野廣一

### ＜編集後記＞

映画『嗚呼 満蒙開拓団』は今も全国で上映活動が続いている。この映画によって方正日本人公墓の存在もかなり知れ渡ってきた。これもほんとうに羽田澄子さんのお陰である。羽田さん、そしてプロデューサーの工藤充さんには謹んで御礼を申し上げます。

映画を通じて新たな出会いもあり、旧友との再会もあった。多くの人たちが映画館に足を運んでいただいたが圧倒的に高年齢の方が多かった。若い人たち、とりわけ次代を背負う大学生や高校生に見てもらいたいものである。今後も上映できるよう我々も努力したい。

次号は来年5月に発行する予定である。今回締切りに間に合わなかった方々、ぜひ原稿をお寄せください。締切りは3月末です。

上記＜報告＞のカンパなどを寄せられた名前の中に(下から2行目)匿名とある。これは東京新聞の五味洋治記者が書いた記事(5頁)を読んだ読者からの寄付5万円である。この匿名氏のように、これまで方正友好交流の会や会報『星火方正』をご存じなかった方々の善意が次第に広がってきている。改めて感謝申し上げます。

### 《表紙写真撮影・師岡武男》

『星火方正～燎原の火は方正から～』(第9号) 2009年12月21日発行

発行：方正友好交流の会 編集人：大類善啓 Email：ohrui@jst.or.jp

〒101-0052 東京都千代田区神田小川町3-6 日本分譲住宅会館 4F

(社)日中科学技術文化センター内 電話：03-3295-0411 FAX：03-3295-0400

郵便振替口座番号 00130-5-426643 加入者名 方正友好交流の会

HP アドレス：<http://www.houmasa.com/>